



説教要旨「あなたのための言葉」

使徒言行録2章1～13節

この使徒言行録に記されているペンテコステの出来事は、「一つ」であるはずの教会を様々な地域に広めてゆくために、さまざまな地域の言葉で「イエス・キリストの福音」を語っていきこうという物語なのです。最初に教会を形作っていった使徒たちの福音宣教は、そのような非常に手間がかかる仕方ではじめられましたが、いつしかそのような非効率的なやり方は廃れていきました。

迫害されていたキリスト教が、ローマ帝国に公認され、国教となり、ヨーロッパ全体に広まっていく中で、聖書はギリシャ語、もしくはラテン語でないと読めないし、教会で聖書が読まれても、ほとんどのクリスチャンにとって、何が語られているのかわからないという時代が1000年以上も続きました。

その歴史が転換したのが、15世紀の宗教改革の時代です。イギリスではジョン・ウィクリフやウィリアム・ティンダル、またドイツではマルティン・ルターが、聖書を原語から英語やドイツ語に翻訳して、出版したのです。このことによって当時の教会の“教え”が、聖書に基づいていないことが白日の下に晒され、宗教改革が盛り上っていったのです。

聖書はいまや、約700もの言語に翻訳され、世界中で読まれている人類最大のベストセラーとなっています。わたしたちはこうして、当たり前のように日本語で聖書を読んでいます。それがあたりまえでなかった時代が確かにあったのです。

ペンテコステの物語における「一つになる」ということには、一つも違ったところを認めないという一致ではなく、それぞれの言葉、それぞれの考え方、それぞれの文化を尊重しつつ、それでも集まって一緒に生きよう、というメッセージが込められているように読み取れます。それは、多少の翻訳による誤差が生じて、イエス様が伝えてくださった“福音”は揺るぎはしないという信頼が、最初期の教会にはあったということではないでしょうか。

大切なことは、「あなたは神様に愛されている」という、この喜ばしい知らせ=福音を、伝えていくこと、それだけなのです。